

## 編集後記・奥付

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-10-02 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00064223">http://hdl.handle.net/2297/00064223</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



〔編集後記〕

昭和も五十年を数えたが、この、時代のひとつの区切りめを迎えて、日本の進路も大きく転換を迫られつつあるように思われる。

多くの人々の意見が一致しているように、今後の日本は、おそらく、 $\wedge$ 中心の発想から $\wedge$ 心 $\vee$ を復権する発想へ、ともいふべき方向をめぐさねばならぬであろう。

昨今の文学界において、隠者的なものへの関心が、従来になく高まっていることも、そういう時代の流れと無縁なことではあるまい。

我々は、本誌創刊以来、二号連続して『閑居友』を特集し、また、説話文学会金沢大会において、「隠者と説話文学」というシンポジウムを企画した。

こうした着眼が、先にふれたような文化的潮流と期せずして同じ水平線をめざす結果となっていたことには感慨深いものがある。

本号は、これまでのそうした我々の志向をもふまえて、鴨長明の、特に『発心集』を新たに研究対象として取り上げることにした。先号での橋本芳契博士の御寄稿にひき続き、本号でも長明と『方丈記』についての、今成元昭教授の玉稿を頂戴できたことに、心からお礼申し上げる次第である。

今成教授の御論は、「文学」昭和四十九年二月号所載「遊胤方丈記の論」を展開させた御論考で、学界にも多くの反響を呼ぶであろうことが期待される。

なお、同人各自の、『発心集』に関する、それぞれの立場からの試論についても、先学諸賢からの、ご批評、ご教導を賜わることができれば幸いである。

説話・物語論集 前号内容

『閑居友』不浄観説話の成立

藤本徳明

『閑居友』上巻第四話空也上人

藤島秀隆

説話評論における「侍り」について(一)

青山克弥

『発心集』『閑居友』を中心に――

原田行造

『閑居友』に投影された明恵上人の世界

橋本芳契

人間長明と維摩の論理

金沢古典文学研究会

『閑居友』全注釈(一)

説話・物語論集	第三号
昭和五十年三月五日	印刷
昭和五十年三月十日	発行
編集	金沢古典文学研究会
担当者	藤島秀隆
発行所	金沢古典文学研究会
	(金沢市丸の内一番一号)
	(金沢大学教育学部原田研究室内)
	電話(〇七六二)六二四二八一(代)
発行者	原田行造
印刷所	紫錦台印刷所
印刷者	谷田一成